日中友好新聞

府連通信

2010年１１月号
日本中国友好協会大阪府連合会
〒530-0013
大阪市北区
茶屋町10-6
阪急北ビル４階
TEL06-6372-8131
050-3413-6491
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail:jcfa@jt8.so-net.ne.jp
ホームページ
http://www005.upp.so-net.ne.jp/jcfaosaka/

協会創立６０周年・関西各県からつどう

十月二四日、中国領事館・申森領事を迎えて阿倍野・楓林閣で４０名が参加して、日中友好協会創立６０周年関西ブロックのつどいを開きました。

開会のあいさつを兼ねて橋爪和歌山県連会長が「中国敵視政策や弾圧の嵐の中、日中戦争の反省に立って創立され、文化大革命の困難な時代を乗り越え、中国と関係を正常化した」と話されました。

中国総領事館の申森領事は「日中友好は歴史の必然性と、時代の潮流であり正しい選択肢だ。両国民の相互理解と民間交流が必要で、意見の相違が有っても冷静な対話の中で解決しなければならない」とあいさつされました。

文化大革命直前に青年交流で訪中し、毛沢東主席と会見したことなど参加者から中国との関わりの話が出たり、内モンゴル出身の姉妹がお祝いの歌を披露されるなど、つどいが盛り上がりました。十一月に大津市で３００名以上を集めて開かれる太極拳まつりの紹介と太極拳の表演、食べきれないほどの料理と紹興酒を味わいながら、楽しいひと時を過ごしました。

中国副総領事が来訪

十月十三日、大阪府連事務所に、九月から中国駐大阪総領事館に着任された、孔多孜・玉素甫副総領事が、殷達奇領事と共に表敬訪問に来られました。

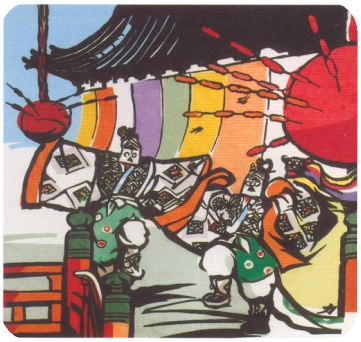
渡辺会長と高瀬事務局長が出迎え、約一時間に渡りさまざまな話題で会話が弾みました。

副総領事の出身地である新疆ウイグル自治区の魅力や、今後の日中友好のあり方など終始興味深い内容でした。これからも日中友好のため、人と人との民間交流を、ますます深めていくことが重要だと感じました。

加藤義明氏逝去、きりえの普及に貢献

大阪のきりえ運動については全大阪きりえ連絡会や大阪きりえセンター開設の中心となり各地にサークルを作るなど、創始者とも言うべき加藤義明氏は九月二十日亡くなられました。七九歳でした。

１９６０年代半ばにきりえという表現方法を身につけて以来、日中友好協会で、きりえ講座を開き、愛好者や作家を数多く育ててきました。



普及と作品の向上に大きな力を発揮してきました。

作品では絵画としてきりえとして百号もの大作を発表。大阪のまつりや風景上方落語や文楽など、大阪を描くことにこだわりを持って制作していました。日中のみならず、革新懇や平和運動にも積極的に関わってきました。

昨年堺市で開かれた「加藤義明きり絵の世界展」が最後の展覧会となりましたが、その仕事の大きさ・素晴らしさは多くの人に感銘を与えていました。

（協会きりえ委員会・前田　尋）

中国電影世界

『初恋の想い出』

と　き：１１月２０日(土)
１７：４５～

ところ：日中文化センター

コーヒー付きで無料です。

中国語の学習にどうぞ！！

2011太極拳・新春初けいこ

日　時：１月10日(祝)10：00～15：30

会　場：守口市民体育館（京阪電車守口市駅）

参加費：1000円　24式、48式、42式の種目別練習と発表会、お年玉抽選会も有ります。**受付は9：30～**

≪守口支部主催≫　連絡は大阪府連06-6372-8131まで

干支色紙・きりえ年賀状講習会

（大阪府連主催）**きりえ講習会：11月30日(火)14：00～**

年賀状材料費600円、

干支色紙材料費500円、受講料1000円

干支色紙講習会：12月3日(金)18：30

（大阪西支部主催）材料費を含む1000円

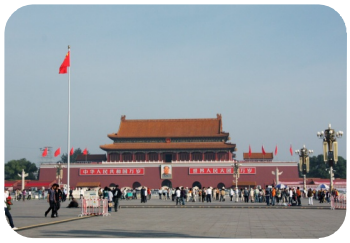
会　場：日中文化センター中国語教室

ノーベル平和賞受賞は喜ぶべきか
インターネット社会と中国の民主化

中国の劉暁波氏（元北京師範大）がノーベル平和賞を受賞と言うニュースが世界を駆けめぐりました。中国ではチベット自治区の宗教指導者ダライ・ラマ十四世に次いで二人目です。

中国では人権や民族の対立をあおるものとして歓迎されていません。劉氏は１９８９年の天安門事件の時、広場にて抗議の断食をして、政府の弾圧に抗議した四人組の一人で、反革命罪で二年間投獄されていました。

そして２００８年に民主化を求める『０８憲章』の主な起草者として、民主化運動を続けていましたが、国家転覆罪で再び投獄されました。



劉氏は中国に法律があっても法事国家ではないと、民主化を叫び続けています。しかし氏の考えの中にあるのはアメリカ賛美の思想です。

と言うのもアフガン戦争やイラク戦争には反対していません。中国当局は西側先進国の価値観を踏襲するものだとして反発しています。

現在、民主主義の程度の差は有るにしても、民主化は世界の中の一員として、避けては通れない道です。いずれは中国の目指す高度に発展した社会主義が花開く時代が来て、価値観が変化するでしょう。しかし現在の中国にあっては、緩やかであっても、世界の発展に応じた改革が求められているのです。

中国の情報化をどう制御するのか

四億人がインターネットを使っていると言われる中で、近代化の波に乗り遅れた内陸部や、少数民族の意見はどのように反映されているのか。急速に発展した中国の情報化社会をどう制御するのか、毎回のように政府に都合の悪いものには蓋をするという事では、一時的には成功してもいつまでも続けられる保証はないと言う事です。

そして一向に収まらない地方役人の腐敗や、貧富の格差に怒り心頭の国民の声として、そのエネルギーが潜在的に有り、事が起こるたびにマグマが爆発する政治的不安定要素を抱えることになります。

インターネット社会の一部の若い世代の世論にかき回されたり、政府批判の広がりを恐れるあまりの言論弾圧や、それを利用した世論誘導などは、後々の負担として現れるでしょう。

権力闘争は民生第一に使われるべきです。

（松原弥寿夫）

湖南省少数民族の村落は殆ど木造
農耕は水牛・機械は使わずに脱穀

九月に友人と江西チワン族自治区北部から湖南省西部の少数民族の山村や古鎮をたずねました。桂林から張家界まで五日間九百キロの旅です。桂林や張家界は有名な観光地ですが、目的の少数民族の村落に向かって、ひたすら山道をバスで走りました。政府の内需拡大策なのでしょう、あちこちで道路の新設や改造ですが、最近は木材の伐採が厳しく制限され、レンガ造りが増えるだろうとのことです。

この一帯は中国でも最貧地域に近く、農耕は水牛で、ちょうど稲の収穫時期でしたが、脱穀は機械を使わず大きな木のマスに稲穂を打ち付けていました。

トン族のショウ会場では腰のまがった老婆たちが「物売り」を、ミャオ族のショウ会場や南方長城では七・八歳の子供たちが「物売り」をしていました。

鳳凰古鎮は今年の日中友好協会のカレンダーに掲載されましたが、今回の旅行で日本人に出会ったのは初日の桂林と七日目の広州だけでした。

（徳道光宏）

２０１１年カレンダー中国悠

Ｂ３判１３枚綴り

定　価：1200円

まとめ買いの場合はご相談に応じます。

連絡先：日中友好協会大阪府連合会06-6372-8131

中国語講座・開講中

中国人との日常会話ができることをめざしています。

会員・学生割引あり、紹介キャンペーン図書券を贈呈

途中入学可（週一回・二時間・６ヶ月２０回受講）

受講料・４４，０００円　　入学金・１８，０００円

二科目受講は８８，０００円を６６，０００円に割引

＊授業の見学は無料で二科目までならＯＫです。